

呉婷さんのブログ 「つぶさに見た日本」

その一 旅行の意味

旅行が終わると、まるで夢から目が覚めたような感じになります。夢の中のその世界にはもう戻れないと思うと、寂しくなります。しかし、夢の中の世界が既に私の現実の世界にしみ込んでおり、既に私の視野、考え方、これからの進み方に影響していると思うと、また前に進みたいと強く思います。

日本に行く前は、とても不安でした。東日本大震災の被災地交流訪問も日程に入っています。被災地にはまだ津波の痕跡が残っているのか、原発の放射線がまだあるのか。今回の訪問が、ある意味で災害の怖さや悲しさを思い知る残酷な行動になるのではないかと思います。また、歴史問題で中日関係が微妙な境地に立っています。日本政府や一般国民に親切にしていただけなのか。言葉の通じない、文化が大きく異なっている日本に、私の居場所があるのか、不安でした。

そういう理由で、成田空港に着いて白人の外国人が目にとまると、とても親しみを感じました。ほら、私と一緒にいるのですか。外国人の彼が英語をしゃべって日本を楽しんでいるのではないのですか。

今回の訪日のガイド兼通訳は、ミキという在日 19 年の中国人女性でした。バスに乗って景色を見ながらミキさんと雑談しました。日本の NHK は企業広告を流さないのだとか、ドラマはいつも十二、三話までだとか、年下の彼氏と年上の彼女はそんなに珍しくないのだとか…いろいろ聞きました。

日本は綺麗だということは、前から聞きいていましたが、実際に見てみると、やはりびっくりするくらい綺麗でした。すれ違うトラックの貨物を載せるところを見てみたら、家のきれいに掃除した床を思い出しました。その後はもう窓から目を離せなくなりました。クラクションが鳴っていない（八日間の滞在中一度も聞くことはなかった）、車はタイヤまで綺麗だ…ミキさんに聞きました。「日本人はどのくらいの頻度で車を洗っていますか」と。「洗車好きな人は週に一回くらいで、普通は月に一回くらいですよ」というミキさんの答えに、更にびっくりしました。

しかし、街はこんなに綺麗なのに、ゴミ箱がないです。昔聞いた話ですが、一人の中国人観光客が日本人に爪切りを貸してくださいとお願いしたところ、その日本人は、爪切りを渡す前に、まず爪切りの中に残っている爪を普通に自分の高級カバンに入れました。このことから分かったことは、一つは日本のゴミ箱は極めて少ないこと、もう一つはゴミ箱が少なくても日本人はゴミを勝手に捨てないことです。ゴミ箱が少ないということは、たぶんゴミの分別処理と集中管理のためなのではないかと思いました。それからの何日間もゴミ箱が少ないことになかなか慣れませんでした。ゴミ箱を見つけた時は、まるで砂漠で

オアシス、チベットでトイレ、試験の時に解答例を見つけ、月末にボーナスもらった時のように嬉しかったです。

道路の左側を走っているバスが速かったです。電動バイクが勝手に車道に入り込んだり、赤信号で横断歩道を渡ったりする心配があまりないからのではないと思いました。見慣れた漢字、有名ブランドのロゴなどが見えてきて、目の前の風景にだんだん親しみを感じるようになりました。特に、宝くじ売り場の長い行列を見て、中国での春節の大型連休の時、列車のチケット売り場の混雑な人並みの風景を思い出しました。宝くじ売り場の場所にこだわる人が多いので、行列が長くなっているのだとミキさんがその面白い話をしてくれたおかげで、緊張がやっと和らぎました。カメラとペン、また私の心で、私が感じている日本を記録します。

その二 日本へようこそ

最初に私たちを迎えてくれたのは、日本側の二人のスタッフでした。一人はエミという優しい女性で、今回の受託団体である「国際交流サービスセンター」のスタッフです。父親の岡本立雄さんは、国際交流サービスセンターの理事長です。岡本理事長は、中日のハーフで、中国語もペラペラで、とてもユーモアで親切な方でした。娘の Emi さんが今回の訪日団をうまく引率できるか、自分の中国語が大丈夫かなと心配して、じんましんまで出たらしいです。

もう一人はミキという北京出身の女性で、今回のガイド兼通訳です。日本の大学を出て、日本人と結婚して、日本国籍を取得して、日本語がペラペラで、礼儀正しくて、日本滞在は、もう 19 年になります。昼生活のためかやや内股になっているようです。

二人は、この 8 日間の短い訪日の旅で、温かくて感動いっぱい、一生忘れられない思い出を作ってくれました。

私たち C 団 29 人の中には、お魚を食べられない人と豚肉を食べられない人がそれぞれ一人いました。エミさんとミキさんが事前にすべてのレストランに連絡を取っていて、特別メニューを手配してくれました。8 日間、毎日たくさんのところを回って、ホテルも殆ど毎日変えていました。全てのホテルの部屋割りや鍵の種類、インターネット・Wi-Fi の使用方法、食事の時間と場所、翌日の服装についての注意事項などの情報を全部事前に準備してくれて、毎日丁寧に確認してくれました。団員たちの荷物がだんだん多くなってきているため、彼女たちがみんなの荷物重量がオーバーにならないようにホテルから秤を借りたりしてくれました。いつも細かく心配ってくれて、事前に手配してくれたおかげで、不便やトラブルなどは何一つも感じなかったです。本当に心から感謝する気持ちでいっぱいでした。空港で帰国する前に、エミさんを抱き締めて、涙が出そうになりました。ミキさんは、みんなの手続きやお荷物の梱包などを手伝うために走り回っていたため、最後まで彼女にちゃんとお礼を言うこともできなかったです。

彼女たちの温かい思いやりから、日本は私たちを歓迎してくれているし、また、日本に

来てくれることを望んでいるし、私たちもまた、日本に来たいと思っている、といったメッセージを感じました。

青森県の教育関係者たちとの意見交換会では、主催側は手書きの看板に、挨拶や内容の説明、注意事項などを丁寧に中国語と日本語で書いてくれて、ずっと看板を持って見せてくれました。また、中国語が話せる日本人の職員も手配してくれました。

また、青森県の観光関係者たちとの交流では、最初に青森県の「いくべえ」君というかわいいう Mascot キャラクターと、中国語で書いてある「熱烈歓迎光臨青森」（ようこそ、青森へ）という大きいスローガンが、私たちを出迎えてくれました。スローガンの上には、私達 29 名の団員の全員の名前が丁寧に書いてあります。

日本語が全然分からない私でも、一人で平気で出かけられるようになりました。何度か道を尋ねて思ったことがあります。一つは道が分からなくても大丈夫だ、ということです。町の人に尋ねたら、道を教えてもらえただけではなく、何度も説明したり、案内までしたりしてもらった事が何度もありました。もう一つは、日本人の英語は聞き取りにくいですが、上手ではない英語で一生懸命に説明してくれる日本人が何人もいました。日本で道に迷っても、必ず助けてくれる人がいると感じました。

日本のおもてなしとホスピタリティーにも感心しました。ある日の夜中の 12 時のことでした。そろそろ寝ようとするところで、コンタクトレンズの保存液を使い切ったことに気付きました。あいにく郊外にある旅館のため、どこで買えるのかさっぱりわからなくて、パニックになりました。フロントに聞いてみたら、近くにコンビニがあるそうで、車で行くなれば 3 分、徒歩なら 15 分ぐらいで行けるとのことでした。車をお願いした場合、いくらかかるかと聞いてみたら、「無料でお送り致します」との回答。まだ迷っている間に運転手さんらしき人がすぐに来ました。おそらく仮眠中で起こされたのか、まだ眠そうな顔をしていました。お客さまが自分で解決できる小さなことで、夜中に起こされて仕事させられるなんて、とても申し訳ない気持ちでした。しかし、その運転手さんはとても親切でした。ドアを開けてくれて、しかも簡単な英語で挨拶してくれました。結局コンビニまで一分くらいしかかからなかったです。結構近いところでした。旅館の従業員がお客様の困難を最大に想定して対応していただいたのだと思いながら、保存液を買ってコンビニを出たら、また驚きました。さっきの運転手さんがもう車のドアを開けて、姿勢良く立って待っているのではないですか。無事に旅館に戻りました。運転手さんがまた「お休みなさい」と挨拶しながら、丁寧に辞儀してくれました。心の中の感動や驚きの気持ちをどうやって伝えて良いか分からなかったですが、お辞儀をしながら日本語で「ありがとう」を何度も言いました。

日本のサービス業のサービス精神のすばらしさを実感しました。今までは「サービス」ということは、「お客様にまたお越し頂く」為にするものと理解していました。しかし今回

は、私が二度とここに来ることはないということに向こうが分かっているにもかかわらず、フロントのスタッフも運転手さんもお客様への心を込めたサービスをして下さいました。これは、もうサービス業だけにある精神ではないと思います。これは日本人の品格にある責任意識から熱心さ、国民性まで注がれているのではないかと思います。今回のことに感動しました。今回のことで日本がある意味で我々が尊敬しなければならない相手だと思いました。150年前の中国では、曾國藩が当時西洋文明を吸収することについて、「師夷之長技以自強」（西洋人の進んだ技術を用いて西洋人を制する）という名言を残しました。これはどんな時代でも時代遅れにならない真理だと考えています。そのため、今回の訪日で感じた日本の良さを一つ一つ記録して、もっと多くの中国人に伝えたいです。

その三 人を大事にしている日本

「その二」に「日本へようこそ」についてお話をしました。これを見ると、多くの方が2008年北京オリンピックの「北京へようこそ」を思い出すかもしれません。

確かに北京五輪と上海万博の時には、素敵な建物を建てて、道端に綺麗な花を植えて、国民性を高めて、とても誠実で親切な態度で世界各地から訪れてきた人たちをもてなしていました。しかし一方では、官僚は一般の国民を大事にしているのでしょうか、国民たちはお互いを大事にしているのでしょうか、私たちは、自分を大事にしているのでしょうか？毒ミルク事件、学校バスの事故、瀋陽の閉店事件、北京の大雨事件からその答えが見えるのではないかと思います。

日本にいた時間は、ほんの8日間でしたが、日本人は人を大事にしていると強く感じました。

日本に行く前に中国と日本のお互いに対して持っているイメージについての調査を見ました。その中の一つは日本人の中国社会体制に対する理解についての質問です。その質問に対する答えのランキングはなんと社会主義、全体主義、軍国主義でした。我々の国は軍国主義と一緒に挙げられている？！なんて、日本のほうが軍国主義だよと思っていました。

しかし日本に来ていくつかのことが分かってきました。例えば日本では子供への影響を考えて映画作品などでは戦争の残酷なシーンがないようにしているようです。私たちのほうはどうでしょう。子供の時からそんなシーンを見慣れてきています。子供の時から見ている抗日戦争の少年英雄についての映画はどうでしょう？彼らは戦争を経験している子供です。

あなたがこの辺を読んで、「これは抗日戦争のためでしょう！日本が悪かったよ！」と怒るかもしれません。

しかし現在ではどうでしょう？毒ミルク事件、学校バス事件、小悦悦事件、地震で倒れた校舎など、これらの子供は、誰のせいで死んだのですか？

日本人は子供のことを大事にしています。例えば、青森県の県立図書館では子供向けの閲覧室がありました。絵本、椅子、おもちゃがいっぱいある明るい綺麗なところでした。また週に一回、ボランティアがここに来て子供と遊ぶそうです。

日本では夫婦共働きの場合でも、中国のようにおばあちゃんとおじいちゃんのところに子供を預けて、育ててもらうことはあまりありません。日本では、あなたの子供だから、私たちにはあれこれで口を挟む権力もないし、育てる義務もない、という考え方のようです。それで、六ヶ月の赤ちゃんでも保育園に預けることがよくあるようです。幸いなことに、日本の保育園はとても安心して子供を預けられるところです。一人の母親として、こういうところがとても羨ましいです。中国では幼稚園で子供に腐った果物を食べさせるようなニュースが時々見られ、とても悲しいと思います。

最近ちょうど友達に安徽省で公益事業に関するプロジェクトをやろうと誘われました。テーマは授乳室です。私の体験として、中国国内の一部の空港や IKEA でしか授乳室を見かけられなく、安徽省ではまだ一回も見ることがないです。私自身は子供に授乳することに結構不便を感じました。会社にいる時いつも空いている部屋を探したりしていました。子供と出かける時も仕方がなくて、レストランの隅っこで夫の母にスカーフで遮ってもらって授乳したりしていました。今回日本に行って特に授乳室のことに気になりました。デパートなどではお手洗いの隣にほとんど授乳室がありました。カーテン、椅子、安全ベルトがついているベッド、コンセント、湯沸かし器、ハンドウォッシュ、ティッシュ、ゴミ箱などが整えている部屋でした。町の中で赤ちゃんや幼児を連れている両親を普通に見かけられるのは、そういった施設が整えていることにも関係があるかと思います。楊瀾さんが今年の「全国人民代表大会」と「中国政治協商会議」で公衆の場で授乳室をもっと設置すべきだと主張しました。授乳室を増やすことにより、母乳育児がもっと多くなって子供の健康に良い、また女性や母親への尊重でもあるといった理由でした。授乳室から一つの国の文明のレベルもうかがえることなのでしょう。

もちろん、子供だけではなく、お年寄りや女性への配慮もよく見られます。お年寄り、女性また子供を扶養する場合は、扶養控除制度の利用が可能です。映画館のチケットも、普通は1枚1500円がかかりますが、50歳以上の夫婦、60歳以上の方、また水曜日に女性の場合は、1枚1000円で買えます。

日本のトイレについても触れなければならないと思います。トイレにおしり洗浄ができることは前から聞いていました。今回は自分の目でこれを確認しただけではなく、女子トイレにある音が流れる音姫、必ず予備の分まで置いてあるトイレペーパー、10秒以内に溶けるトイトペーパー、各部品やキーについての詳しい説明…。初めて利用しても全然困

るとは感じないと思います。トイレまでこんなに細かく整えられるなんて、すごいと思いました。

また、日本人の防災意識もすごいと思います。ほとんどの住宅マンションまたオフィスビルに、必ずどこかの窓ガラスに赤色の逆三角形のマークが貼られているようです。これは「非常時進入口」と言って、火災時など消防隊員がここから進入できます、というマークで、その周りに邪魔になる物を置いてはいけないことになっています。町の道路にも「死亡事故発生場所」、「渡る前に左右確認してください」、「横断禁止」などの標識が見られます。しかも、もっと素晴らしいと思ったのは、みんなが交通ルールをちゃんと守っていることです。

日本人がきちんとルールを守ることは交通の面からもうかがえます。東京は国際都市とはいえ、道路は想像以上に狭かったです。しかし、渋滞も見かけなく、クラクションも聞けなかったです。みんなが交通ルールを守っているから滞らないのではないかと思います。また、政府が国民に公共交通機関の利用を提唱しているため、タクシーや駐車場の使用料金はとても高いようです。一方、地下鉄はとても便利で安いです。

帰国する日に、最初の日と同じように、東京の道路でランニングをしている人たちを見かけました。今回は人が多かったです。肌が違う人たちが夕方の景色の中で走っている姿がとても美しいと思いました。何故、彼らはランニングに夢中なのでしょう？こんなにたくさんの方が集まっても複雑な報告をする必要がないからでしょうか？この空気がきれいで町の中が静かだからでしょうか？それとも自分の生活をエンジョイしているからでしょうか？

その四 日本人の幸福度

日本に行ったことがある人は、よく日本の物価が高いといます。これはどうでしょうか？スイカー玉は 70 円で、ケンタッキのセットは 60 元ぐらいです。タクシーだと、初乗りは 660 円 (50 元くらい) で、あっという間に 4000 円 (300 元くらい) になってしまいます。日本でお土産を買う時も大変でした。では、日本では **Made in Japan** の製品のほうが輸入品より安いのでしょうか？No! 違いました！電器屋に行ってみたら、**Made in Japan** の電気製品は中国ネット通販の淘宝 (taobao) の価格とあまり変わりませんでした。しかも日本製の製品は、操作言語は英語もなく、日本語しか対応していなかったです。日本人は外国人のお金に興味がないのですか？！逆に、日本製の製品の方が高くて、輸入品などのほうが安いみたいです。この点は中国と違うと思います。たぶん日本人にとって、日本製のものが一番良いと思っているでしょう。

では、日本人の給料はとても高いのでしょうか？日本政府が開催してくれた歓送会で中山英子さんという人と知り合いました。中山さんは山東省出身で、30年ぐらい前に来日しました。現在、旅行会社を経営しており、中日政府や企業間の訪問などの業務に関わっているようです。最近卒業したばかりの1人の中国人留学生を雇用し、月20万の給料を払っているそうです。人民元だと1万6000元になりますが、家賃や食費などを除けばそんなに残らないようです。

東京の夜、街の中で酔っ払って寝込んでいる男性たちを見かけました。スーツを着ているのに、カバンを枕にしたりしてそのまま寝ていました。ストレスがたまっているからと聞きました—この点については中国の男性は酒に強いし、倒れるとしても自分の家に帰ってから倒れる—これは東京の一つの特色なのでしょうか。ただし、日本のような治安がいいところでないとも、もしカバンなどが取られれば、もう街の中で倒れないでしょう。日本で働いている友達がいて、両国の生活にも詳しい人ですが、街の中で倒れている人を見て、「日本の男性と中国の男性、どちらのほうが幸福度が高いと思いますか？」と彼に聞きました。彼はしばらく考えた後、「やはり中国の男性のほうが高いと思います」と答えました。

彼は、優雅な生活をしているので、中国の全ての男性を代表した発言とはいえないかもしれません。また、彼は正しかったかもしれません。日本の男性のストレスは、街の中で酔っ払っている風景からもある程度窺えるのではないかと思います。

日本人男性のストレスが大きいといっても、先ほども触れたように、卒業したばかりの新入社員であっても大手企業のボスであっても、お年寄り、専業主婦、子供を扶養する場合は、扶養控除制度の利用が可能な点は、いい制度だと思います。

一方、日本の女性の生活も大きく変わったようです。昔のように深夜まで玄関先で夫を出迎えることがあまり見られなくなってきたようです。結婚して暫くの間専業主婦になるかもしれませんが、そのうちまた仕事をする人が多くなっています。また日本のお年寄りはわりと余裕のある生活をしていて、おしゃれもしたりしています。

今後の経済発展やエネルギー問題などに対して不安を覚えているため、子供を生まないと考える日本人が多くなっています。高齢化が進んでいる現在では、もっと多くの子供を生むことを提唱する対策もたくさんあるようです。

日本人の幸福度について、中山英子さんも自分の意見を述べてくれました。30年前に日本に来て事業を始めた時、言葉さえ通じなかったそうです。新しい人間関係から新しい考え方、新しい規則まで慣れなければならなかったです。いろいろと難しいこともあったよ

うですが、日本は、規定や規則、ルールがきちんと決まっていたが幸いしたそうです。また、中日間の業務について中国側とやりとりをした時、効率が低いことや態度が冷たいことなど、難しいと感じる時が多くありましたが、中国人として、在日中国人として、そんなことを日本側に話さないようにしています。

日本では、色々苦勞もありますが、心までは疲れていないと言っていました。

幸福度ということは、その人や周りの環境、自分の求めているものなどによって違いますので、人それぞれ違うのでしょう。

その五 愛憎を置いて、まずは日本を理解することだ

ミニブログで「日本に来た」とつぶやいていたら、すぐ「なんでそんなところに行く？」といったコメントが来ました。また日本のトイレの写真などを載せていたら、「外国崇拝はだめよ。もっと自分の国を愛して」というコメントもありました。

それらは極端的な考えですが、それらを理解するつもりです。私を含めた周りの人でも、たとえ日本の良さを十分分かって、心に負ったあの傷故に日本に対して疑いや恨みなどの気持ちになってしまうかもしれません。

白岩松さんは『白岩松が見た日本』でこう言いました。「愛や憎しみの前に、まず日本を理解することだ」。日本に行って自分の肌で日本を体験できた私は、これに賛成です。

銀座にある吉野家に行きました。とても込んでいて、味は中国国内の吉野家とあまり変わらなかったです。そこで林さんという人に出会いました。林さんは中国福建省の出身で、日本で10年ぐらい働いていて、最近日本国籍を取得する申請を出しました。彼は10年前に何かのきっかけで来日し、日本にある会社に就職しました。最初は歴史問題で日本に対して抵抗感を抱いていたし、不安もありました。それから6年後、彼はやっと日本に対する恨みから解放されました。ここの、制度、国民、都市、景色、ここの全てが友好というメッセージを彼に伝えています。私たちはいろいろ話しました。別れる時に彼は真面目な顔で私にそう言っていました。「メディアで働いている呉さんをお願いしたいです。私たちの在日中国人の気持ちをもっと伝えてくれますか？私たちは母国を愛しています。日本も好きです。日本人の方は私たちに対してとても親切です。」

日本人の親切さについて既に何度も触れてきました。しかし、まだ言いたいことがあります。それは、同じ人間として日本人は自然災害にどのように対応してきたか、また同じ人間として私たちは憎み合わず、団結し、助け合い、理解し、学ぶべきだということです。

今回の訪問地の中に仙台空港がありました。仙台空港は去年3月11日発生した大津波で大きな被害を受けました。空港ロビーの柱にある津波到達ライン 3.02m の目印を見た時、言葉が出ませんでした。怖かったです。去年の春、ここでそんなにも恐ろしい壊滅的な災害が起きたのでしょうか。ビデオには、襲う巨大な津波、津波に飲み込まれていく飛行機、車、コンテナ、逃げている人たちが…

壊滅的な被害を受けた仙台空港は、わずか6ヶ月で復活を果たしました。津波の面影を感じさせない、堂々とした姿を見せてくれた仙台空港は、国内外のお客様を再び迎え始めました。そして同時に、国内外のお客様からの尊敬も勝ち取りました。

空港の従業員たちは津波の恐ろしさ、一致団結の強さ、再建作業の大変さを弁舌さわやかに語ってくれました。こういう態度で災害に直面できることは、ある意味では彼らの心の再建もある程度できているのではないかと思います。これは、いくら多くのビルを建てることよりも貴重なことだと思います。

中国に「多難興邦」（国が多事多難であれば、人民はかえって奮起して国の興隆をもたらす）という諺があります。日本は地震の多い国のためか、日本人は強靱で、粘り強い部分があると言われていています。多事多難から培ってきた品格や経験の中から、私たちは、憎しみを捨てて学ぶべき何かがあるのではないのでしょうか。

合肥（中国安徽省の省都）に帰ってきた時、道路にある「雷鋒（中国の無私の象徴として取り上げられている）に見習って品格の高い人になりましょう」という横断幕を見ました。ふと思いました。私たちは子供の時から教科書に教えられて、教科書に感動してきましたが、社会に出てみると、それまでに学んできたことは童話のような話で、実際に実行する人は、余りいないことに気付きました。日本では、こういうスローガンなどを見たことはなかったですが、街の中で人を助ける「雷鋒」がたくさんいました。

今回は伝統的な景色をあまり見られなく、華道と茶道の香りを嗅ぐこともなく、京都・大阪・北海道にも行けなかったですが、伝統文化を伝承してきた先進で現代的な日本を体験することが出来ました。

日本を恨んだことがあるかどうかは分かりませんが、私の祖国を心から愛していることは確信を持って言えます。これまで、交流・理解・憎しみを捨てる・尊重する・学ぶことの大切さについて触れてきましたが、これら全ては、私たちの国がもっと良くなってほしい、人の心がもっと良くなって欲しいと願うからなのです。

（訳文：董廣芳、馮婧）